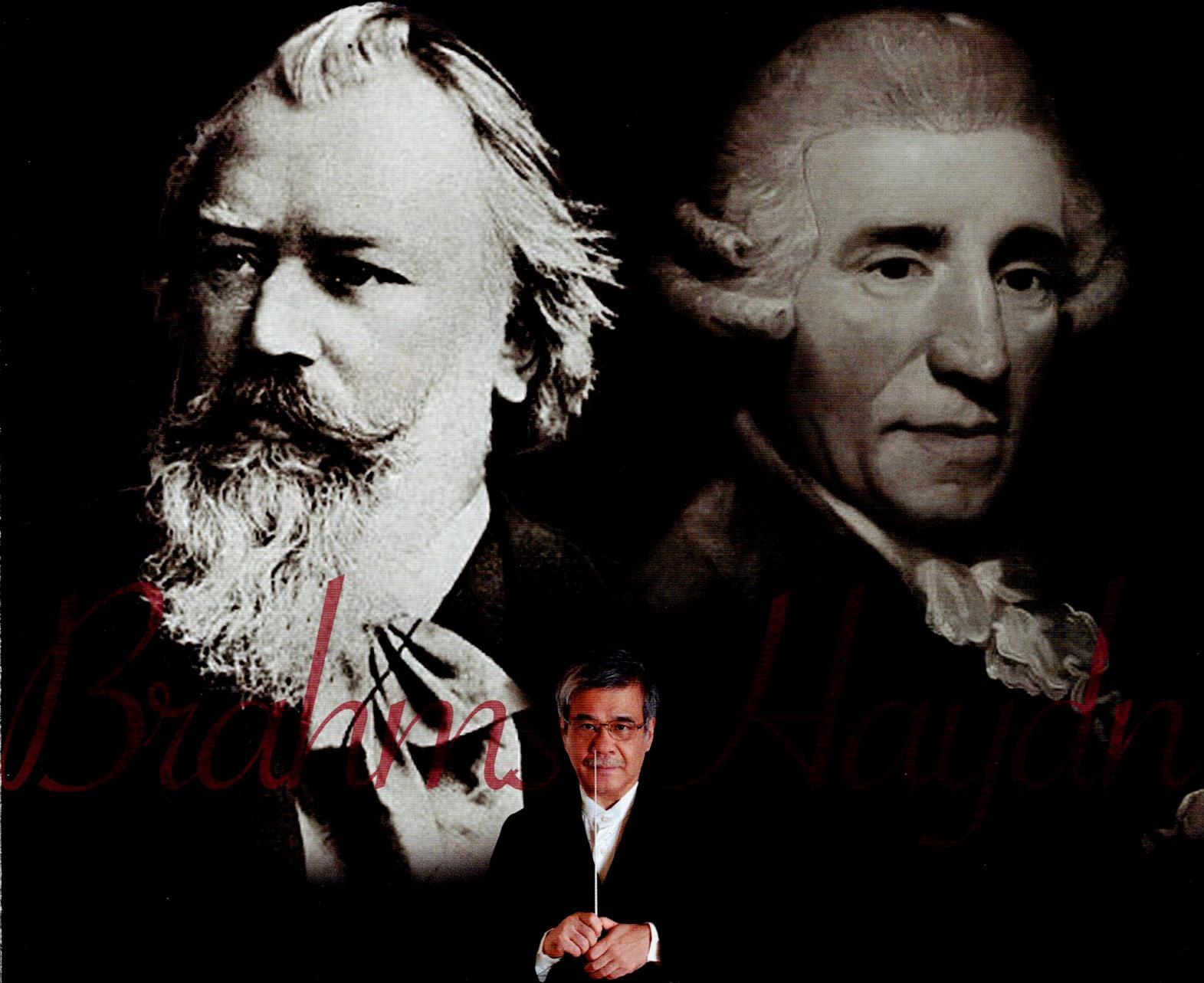


# 市響

— ブラームス / ハイドン  
変奏曲のひみつ —



第416回 ファミリー交響楽 —

2020.12.6(日)

14:00開演(13:30開場)

行徳文化ホールⅠ&Ⅱ

(東京メトロ東西線行徳駅下車)

入場無料・整理券発行

指揮と解説：茂木大輔

管弦楽：市川交響楽団

お問い合わせ : main@ichikyo.org 市響ホームページ : <http://ichikyo.org/>

主催: 市川交響楽団協会 協力: (公財)市川市文化振興財団 山崎製パン株式会社 後援: 千葉交響楽団協会 特別後援: (公社)日本アマチュアオーケストラ連盟

## 本日のプログラム

伝ハイドン(作曲者不詳) / 野外音楽第1番 変ロ長調 HobII:46

- I. Allegro con spirito
- II. Andante, "Chorale St. Antoni"
- III. Minuetto
- IV. Rondo: Allegretto

<ブラームス/ハイドン変奏曲のひみつ>

ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

- Theme
- Variation 1: Poco più animato
- Variation 2: Più vivace
- Variation 3: Con moto
- Variation 4: Andante con moto
- Variation 5: Vivace
- Variation 6: Vivace
- Variation 7: Grazioso
- Variation 8: Presto non troppo
- Finale: Andante



ブラームス/交響曲第3番 へ長調 作品90

- I. Allegro con brio
- II. Andante
- III. Scherzo. Poco allegretto
- IV. Allegro

## プロフィール

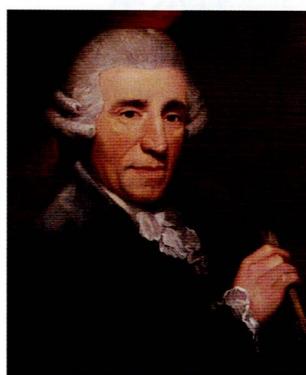


指揮／茂木大輔 (もぎ・だいすけ)

ミュンヘン国立音楽大学大学院修了（オーボエ専攻）後同学講師を勤める。またバンベルク交響楽団、バイエルン放送交響楽団などで首席オーボエ奏者に客演。以後86年からシュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団の第1オーボエ奏者を経て、1990年からNHK交響楽団首席オーボエ奏者。独自の企画による多数のCDをリリースして注目を集め。1996年から指揮活動に入り、オーケストラの楽器や、バッハの教会音楽、ベートーヴェンのシンフォニーなどの解説コンサートで全国的に活躍。2009年より4年間にわたって東京音楽大学指揮科及び大学院にて指揮実技、音楽理論、スコアリーディングなどを学び、2013年優秀な成績をもって大学院を卒業。指揮を故・岩城宏之、及び外山雄三、広上淳一、田代俊文、三河正典の各氏に師事。

現在までに仙台フィル、山形交響楽団、アンサンブル金沢、群馬交響楽団、東京シティ、東京シティ・フィル、東京混声合唱団、名古屋フィル、セントラル愛知交響楽団、中部フィル、日本センチュリー交響楽団、兵庫PAC、広島交響楽団、九州交響楽団など多数の団体を指揮している。また、二宮知子「のだめカンタービレ」原作に取材協力、自ら企画・指揮する「生で聴くのだめカンタービレの音楽会」を全国展開し、高い評価を得ている。執筆活動でも知られ、「オーケストラ楽器別の人間学（新潮文庫）」など多数の著書がある。最新刊は「交響録 N響で出会った名指揮者たち」（音楽之友社）～本日ロビーでご案内いたします。

## 伝ハイドン(作曲者不詳) / 野外音楽第1番 変ロ長調 HobII:46



ふだんは管楽5重奏編曲版で演奏される「ハイドンのディベルティメント」を、本日はオリジナルに近いオーボエ2、ファゴット3、ホルン2、コントラファゴットによる管楽合奏でお聞きください。

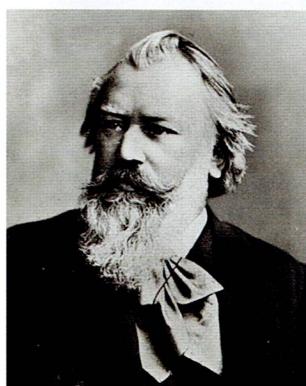
短くも印象的なイントロを持つ第1楽章は軽快なテンポです。

第2楽章が「聖アントニウスのコラール」です。聖アントニウスはA.D.251年にエジプトに生まれたキリスト教の聖人です。20歳の時に新約聖書のキリストの言葉に感銘を受け、全財産を貧しい人に与え、自分の妹ですら修道女に託し、苦行に踏み出します。悪魔は彼が妹を放棄したことを責め、加えて金銭欲、名誉欲、食欲、色欲の誘惑でそそのかし、最後は暴力で従わせようとしています。彼はそれに耐え、さらに20年間の山籠り苦行を乗り越えます。その場所には彼をしたって多くの修道院が立ち並び「修道士の父」と呼ばれました。「聖アントニウスの誘惑」は多くの芸術作品の題材になっており、絵画ではミケランジェロ、セザンヌ、ダリなどが題材にしています。

第3楽章はトリオを挟んだメヌエット、早いテンポの第4楽章には「聖アントニウスのコラール」が見え隠れします。

この曲はホーポーケンによるハイドン作品目録では偽作とされ、このコラール自体の作曲者も不詳です。私はずっとハイドンの作だと思っていた、今回チラシを作るにあたりそれを知り、「今さらそんなこと言われても」と少々ショックでした。

## ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲 作品56a



ブラームスが前曲「ハイドンのディベルティメント」の楽譜を友人から見せられたことがきっかけで書かれた曲です。作品番号の56aという表記は、ブラームスは初めにピアノ連弾で作曲し(56b)、それをオーケストラに編曲したものだからです。ピアノ連弾版はあたかもこの変奏曲の設計図を見ているかのようです。

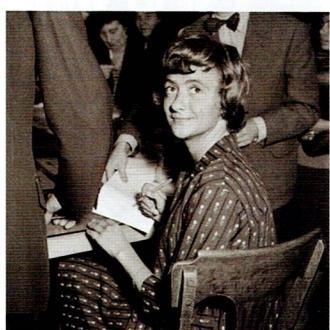
《主題》前曲第2楽章との響の違いをお聞きください。《第1変奏》弦楽器の背景に管楽器群のリズムが印象的です。《第2変奏》ハンガリー風の木管の付点リズムが特徴的です。《第3変奏》木管楽器群が綺麗に歌いあげます。《第4変奏》オーボエとホルンがあたかも1本の楽器で演奏されているように奏ります。二声対位法で作られています。《第5変奏》交響曲のスケルツォのようです。《第6変奏》ホルンとファゴットで始まるブラームスらしい「益荒男振り」の曲です。《第7変奏》この曲を聴くとフルートはお姫様だなって感じます。《第8変奏》ブラームスの不思議ちゃん。《終曲》交響曲を締め括るような短くも壮大なパッサカリアです。コラールの5小節単位が19回繰り返され、コラール主題で締めくくられます。

変奏曲とは、モーツアルトの有名なきらきら星変奏曲のように、あるメロディのバスを変更せずに、リズム、拍子、和声をさまざまに変化させる、作曲家やプレーヤーの腕を見せる曲ですが、この「ハイドンの主題～」はそれらを超越したブラームスの晩年の交響曲へのアプローチが感じられる作品です。

## ブラームス/交響曲第3番 ヘ長調 作品90

「クラシック音楽が趣味です」と言うと、わりとしばしば「好きな作曲家は誰ですか?」と聞かれます。私は「ブラームスです」と答え、「ブラームスはお好きですか?」と問い合わせます。本当はモーツアルトやチャイコフスキイなどのメロディーメーカーが好きなのですが、その方がなんかカッコ良いかなって思って。

『ブラームスはお好き』



フランソワーズ・サガンの小説の題名で、25歳の青年シモンがバツイチのキャリアウーマン39歳のポールをコンサートに誘う手紙の中のさりげない一節です。この選択は絶妙ですよね。バッハでもモーツアルトでもベートーヴェンでもダメ。ブラームスというところにコンサートデートでのシモンの狙いが伺われます。出版の翌々年に『さよならをもう1度』のタイトルで映画化され、第3楽章のメロディがいたるところでさまざまに使われています。クラシックファンには賛否がありそうですが、私はどれも好きです。

この交響曲第3番は、ブラームスが第2交響曲を完成した6年後50歳の時の作で、ワーグナーの亡くなった年もあります。F→Fdim7→Fのコードで始まる第1楽章は6/8拍子ではなく6/4拍子です。情



熱を感じてください。クラリネットとファゴットの素朴なメロディで始まる第2楽章は祈りと陶酔に浸ることができます。お待ちかね第3楽章は名にし負う市響チェロパートのホルンパートの実力をご堪能ください。第4楽章はなかなか晴れることのない景色です。

今回のプログラムを伺った時「なんで3番?」という疑問がまず浮かびました。プログラムノートを書かせていただくに当たり、何十回も音源を演奏順に聞く中で、特に交響曲第3番の中にある「祈り(コラール)」が深く心に残るようになり、前半の曲とつながるように感じるようになりました。私の勘違いかもしれません、今のこの時期に今日の演奏曲目はとても必要な曲なのではないかと思うようになりました。皆さんもよかつたら曲中の「祈り(コラール)」を探してみてください。

## 本日の出演者

### 管弦楽:市川交響楽団 (いちかわこうきょうがくだん)

2021年に創立70周年を迎えるアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。メンバーは現在100余名で年齢構成は高校生から70代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに常に積極的な活動を展開している。

#### 【コンサートミストレス】

立田 祥子

#### 【第1ヴァイオリン】

石崎 俊信

大橋 一郎

大橋 かおる

皆合 愛子

佐分利 幸江

秦 一宜

本郷 尚子

渡辺 惟

#### 【ヴィオラ】

内田 綾美

園田 陽子

谷口 善樹

奈良林 弘子

星 乗昭

#### 【チェロ】

岩田 理人

倉澤 倫子

日澤 優

福原 耕二

#### 【フルート】

菊地 正樹

佐藤 洋行

二木 陽子

#### 【オーボエ】

五十嵐 文人

白木 広美

二村 直子

古澤 恵子

本間 広樹

#### 【クラリネット】

秋永 直美

時田 雄

半藤 嗣人

#### 【ファゴット】

遠藤 由紀子

金坂 哲

平賀 紀章

山内 静

#### 【ティンパニー】

都筑 裕

和田 英恵

#### 【ホルン】

井村 公子

木下 泰斗

近藤 利昭

武井 綾香

山内 正晴

#### 【トランペット】

新井本 昌宏

八木 巧次

#### 【トロンボーン】

石黒 弘道

藤平 一仁

吉川 昌憲

#### 【第2ヴァイオリン】

菅原 夕

佐藤 千春

滝葉子

時田 枝里子

早川 貴子

久田 しげ子

溝田 範子

武藤 敦子

山本 芳功